

犬島地域振興計画

I. 地域の概要

犬島地域は、昭和42年に離島として指定されている。

岡山市の東南端、宝伝・久々井地区の沖約2.2 kmに位置しており、地質は主に花崗岩からなり、標高差が30m前後のなだらかな地形となっている。

気候は温暖かつ少雨の瀬戸内海気候であり、年間平均気温は16.6℃、年間降水量は1,100 mm程度である。

平成22年国勢調査の人口は54人であり、島固有の地理的・自然的な制約や主産業の不在、また、少子高齢化の進行を反映して、前回の計画策定以降10年間で、30人(約▲35.7%)の大幅な減少となった。また、年齢構成は、年少人口0人(0.0%)、生産年齢人口11人(20.4%)、老年人口43人(79.6%)と、老年人口が大半となっている。

高齢化率は平成12年の約53.6%から約79.6%へと大幅に上昇し、高齢化が急速に進んでいる。

II. 施策の内容

(1) 振興の基本的方針

本地域は、産業基盤や生活環境の整備などが他地域と比較し十分とはいえず、住民の79.6%が65歳以上となるなど著しく高齢化が進んでおり、若年層・中高年層の流入もあまり期待できない現況のままでは、近い将来全住民が高齢者という事態も想定される。そのため、高齢者に十分に配慮した島づくりを進めるとともに、若年層・中高年層が集う魅力ある島づくりにつながる施策の展開が必要である。

本地域には、古くから銅の精錬業と採石業などで隆盛を極めてきた歴史があり、現在も当時をしのぼせる明治・大正時代の銅精錬所跡や採石場跡などの産業遺跡が残っている。平成20年には公益財団法人福武財団が島内に残る銅の製錬所の遺構を利用した「犬島アートプロジェクト『精錬所』」を公開した。平成22年には岡山県と香川県の島々で現代アートを発信する第1回瀬戸内国際芸術祭が開催され、犬島もその会場となり、集落で展開する「犬島『家プロジェクト』」が公開された。このイベントは国内外で大きな反響を呼び、芸術祭期間中はもち

ろん、現在に至るまで本地域に大勢の人を呼び込んでいる。

今後も引き続き、住民の安全・安心で快適な暮らしとのバランスを保ちながら、文化・芸術の島として、芸術活動の継続やイベント開催などへの支援を通じ、交流人口の増加や犬島への関心の醸成など、島の活性化に結びつけていく。

また、高齢者が安心して快適に生活していくために、本土側の関係機関等と連携し、医療・福祉・介護サービスの充実に努めていく。

その他、住民及び来島者の利便性向上のための本土側との交通アクセスの確保をはじめ、海水浴場、キャンプ場、犬島自然の家などの既存施設や優れた自然条件を有効活用した観光、レジャー、体験学習など多様な活動ができる環境づくりを検討・推進していく。

(2) 交通・通信体系の整備

(2-1) 交通体系

【現状と課題】

本地域の航路については、本土側宝伝港まで(距離約2.2 km、所要時間10分、1日7便)と香川県直島港まで(距離32 km、所要時間55分、1日3便)の2航路が現在開設されており、特に本土側宝伝港までの航路については、生活航路として、また来島者のアクセス路として重要な役割を果たしている。

現在、住民の唯一の交通手段である船便を確保する必要から、本土と接続する定期船に対しては、経営上の補填を実施し、航路を維持・確保している。ここ数年は、瀬戸内国際芸術祭開催等により、多くの人が島を訪れ、船便の利用者も増加し、経営状況は安定しているが、将来の見通しについては不安定な要素も多い。

本土側の定期船への交通アクセスとなるバスについては1日4便と運行数が少なく、住民や来島者の有用な交通手段にはなっていない。

また、島内の道路は舗装状態が良くないことから、随時道路修繕を実施しているが、車椅子等での移動には負担が生じる箇所もあり、バリアフリー化などの対応が望まれる。

【施策の内容】

住民及び来島者の利便性を確保するためには、当面は現状の航路便数を維持していくことが重

要であり、船舶業者への支援を継続するとともに、将来も見据えた安定的な定期航路の確保に向けて、その手法についてもあわせて研究していく。

さらに、住民の本土における移動の円滑化、来島者の利便性の向上に向け、バスと定期船との連絡や増便の可能性について検討する。あわせて犬島と本土及び瀬戸内海の各島々とのアクセス向上に向けた新たな公共交通体系の構築の可能性について研究を行う。

なお、港湾施設については、定期船の利用状況や便数の増加など周辺環境の変化に応じた適切な整備を検討していく。

また、島内移動を円滑にするため、島内道路の維持補修に努める。

(2-2) 通信体系

【現状と課題】

電話、テレビは全世帯に普及し、地上デジタル放送のエリア対応も完了済みであり、携帯電話についても、ほぼ通信可能なエリアとなっている。また、インターネットについては、ADSL や第 3 世代携帯電話による高速インターネット通信が可能となっている。

しかし、最新の情報通信サービスである超高速ブロードバンド環境は未だ整備されていない。

【施策の内容】

情報通信基盤整備とそれを最大限に活用したサービスの提供は、医療・福祉・教育・観光・産業など多方面にわたって大きな効果をもたらすものであり、特に地理的制約のある離島においてそのメリットは大きく、本土との格差は正に向けた期待は大きい。活用する分野、目的、方法など多角的な検討を通じ、情報インフラの整備など有効な対応策を模索していく。

(3) 生活環境の整備

【現状と課題】

上水道は本土からの海底送水が行われており、全世帯に普及している。

ごみ処理については、本土から収集車を運搬し、ごみの分別収集が行われているが、住民数の減少が続いており、コスト面での課題がある。

し尿処理については、軽四バキューム車により各家庭から収集し、犬島浄化センターで処理を行っている。ごみ収集と同様、住民数の減少に伴いコスト面での課題がある。

【施策の内容】

ごみ・し尿処理については、快適な生活環境を維持していくため、住民の減少や来島者の増加など様々な要因を考慮しながら、低コストで安定した収集体制の確立に向けた検討を行う。

(4) 医療・福祉の確保・充実

(4-1) 医療

【現状と課題】

医療体制は、犬島診療所 1 ヶ所において週 1 回診療が行われているが、医師が常駐していない。そのため診療所で対応できない場合は、本土の医療機関へ通院しなければならず、住民にとって身体的、時間的、経済的に大きな負担となっている。

その他、年 2 回の巡回船による集団検診が実施されている。また、急病患者搬送のための船の借り上げ費用に対する助成を行っている。

高齢化が進む住民の間には医療に対する不安が大きく、健康で安心して暮らせるための医療環境の整備を望む声が強い。健康相談をはじめ、疾病予防、治療、リハビリテーションなど一連の医療サービスの提供が求められている。

島内には場外離着陸場が 3 ヶ所あり、救急患者が発生した場合は、消防ヘリ「ももたろう」のほか、県消防防災ヘリ「きび」、川崎医科大学付属病院ドクターヘリの出動を要請し、救急患者の搬送が可能であるが、夜間や悪天候時のフライトは困難を伴う。

【施策の内容】

「治療から予防へ」の意識改革を図り、自分自身の健康づくりに関心を払い、健康増進・疾病予防に向けた行動を起こしてもらうことが重要である。官民協働により、島内住民を対象とした健康づくりに向けた講習会や相談会を開催し、健康への意識を高めるなど、地域ぐるみでの健康づくりの実践に向けた体制づくりを支援する。

また、本土の医療機関へ通院する高齢者が多く、通院に係る交通費が大きな負担となっていることから、地理的制約に起因する経済的負担の軽減に努め、本土側医療サービスを利用しやすい環境づくりに向けた検討を行う。

救急医療については、救急患者を安全かつ迅速に本土へ搬送できる体制づくりに努める。また、緊急通報システムの普及啓発に努め、有効活用を図ることにより、事故や急病などの緊急時に備える。

(4-2) 高齢者等の福祉

【現状と課題】

本地域の高齢化率は、約 79.6%と極めて高く、健康・医療・高齢者福祉対策は最大の懸案事項となっている。

地域包括支援センターでは、住民と連絡を取り合いながら介護等に関する相談や、関係機関との連絡調整などを行うとともに、島内で介護予防教室等の講座を開催している。

しかしながら、島という地理的制約により、訪問系サービスが利用しにくいなど本土との間に介護サービスの格差が生じている。住民の中には、島内に住み続けることが困難になり、本土の身内に身を寄せるなど島を離れる高齢者もおり、定住の場所として島を維持するためには、福祉サービスの充実が求められる。

【施策の内容】

高齢者向け介護サービスなどの充実に向けて関係機関との連携を強化していくとともに、安心して快適に住める生活環境づくりのために、住宅改修支援制度など居宅サービスの周知に努める。

また、高齢者の生きがい対策として社会活動への参加機会の確保・提供に努めていく。

(5) 教育・文化の振興

【現状と課題】

島内の幼稚園・小学校・中学校は平成3年に廃校となった。現在その学校跡地に社会教育施設「犬島自然の家」を設置し、シーカヤックや天体観測などの自然体験活動を実践しているほか、生涯学習活動の一環として公民館による出前講座等を開催している。

また、島内には経済産業省から近代化産業遺跡群に指定された銅の製錬所の工場跡や菅原道真公を助けたという話に由来する犬石様のお祭りなどの文化財や伝統行事があり、瀬戸内国際芸術祭の開催をきっかけに全国から関心を集めている。

しかし、伝統行事については住民の減少と高齢化により、その継承が危ぶまれている。

【施策の内容】

公民館等との連携により、犬島自然の家などを活用して住民が気軽に参加できる生涯学習活動の内容の充実に努めるとともに、市民や関係機関と連携しながら、文化財や伝統行事を伝承していくことの必要性について意識の共有化を図っていく。

(6) 防災基盤の整備

【現状と課題】

高潮の被害を防止し、住民の安全と安心を確保するため、平成元年度から平成8年度にかけ東谷地区と釜口地区の海岸線において高潮対策事業を実施したが、平成16年の台風第16号においては観測史上最大の潮位を観測し高潮被害への防護水準がそのレベルまで引き上げられた。

また、災害時においては、孤立する可能性もあることから、その対策として、災害時における早期情報伝達など島内との通信機能の強化を図っていく必要がある。

消防体制については、消防団機庫1棟、軽四消防車(可搬ポンプ積載車)1台、その他可搬ポンプ1台がある。島内で火災が発生した場合は、最寄りの消防署所から出動した消防車が久々井港又は宝伝港へ一時集結し、その後船により消防隊員と消火用資機材を本土側から搬送することとなっている。島内には、犬島分団が存在しているが、消防団員は実員8名と少ないため、防災面での一次対応能力に不安がある。また、町内会による自主防災会を結成しているが、構成員の減少や高齢化の進行、また、若年層の流出により、団員の補充が困難となるなど、消防体制に不安がある。

【施策の内容】

住民が安心して安全に生活できるよう高潮対策としての海岸整備に継続して取り組むとともに、近い将来発生が想定されている南海トラフの巨大地震による津波も見据えた海岸整備も併せて検討していく。

また、住民と来島者の安心・安全を確保するため、双方向通信が可能な防災行政無線屋外拡声子局を新たに設置し、災害時における島内への情報伝達と本土及び島内との通信機能の強化を図る。

消防体制については、地域の実情を考慮しながら迅速で効果的な体制づくりに向けた検討を進める。

(7) 産業の振興

【現状と課題】

本地域における平成22年の産業別就業者をみると、就業者数15人のうち、第1次産業が1人で6.6%、第2次産業が2人で13.3%、第3次産業が12人で80.0%となっている。

第1次産業は漁業従事者で、第2次産業では、長年の間犬島の産業を特徴付けてきた石材業が、現在は1カ所を残すのみとなっている。第3次産業としては、商店、バンガロー、飲食店等が営まれているが、数軒あった商店、バンガローはそれぞれ1軒のみとなっている。経営者の高齢化、後継者不足、一年を通しての集客が課題となっており、店舗等の減少は、今後、住民生活のみならず観光面においても支障となることが懸念される。

一方、島外者が港付近でカフェをオープンさせたり、地元の愛郷者による犬島石のPRやそれを使った商品開発など、新たな動きも一部で見受けられる。

定住の促進に向けては職の確保が重要であり、高齢化等により島内の住民による新たな産業の創設・育成は難しいことから、島外事業者等との連携による観光分野を中心とした産業の育成に向けた取組が求められる。

【施策の内容】

アートプロジェクトなどにより増加傾向にある来島者の受入体制や夏季の海洋レクリエーション客等の利便性を考慮すれば、商店や宿泊施設の充実などが求められる。島内の施設経営者

等や、島内でアートプロジェクトを展開する公益財団法人などの関係者からも意見を聞き、連携しながら将来に向けた対応策を検討する。

(8) 観光の振興

【現状と課題】

夏季には南東部の海水浴場を中心に、海水浴客等で賑わっており、また、島の周辺海域が釣りの適地であることから年間を通じて釣り客が訪れている。

平成20年には公益財団法人福武財団が銅の製錬所跡の遺構を利用した「犬島アートプロジェクト『精錬所』」を、また平成22年には瀬戸内国際芸術祭の開催に合わせ「犬島『家プロジェクト』」を公開し、犬島は現代アートの島として脚光を浴びることになった。それをきっかけに多くの観光客が来島し、住民とふれあい、交流を深めることになった。今では、住民も観光客を自然に受け入れ、新たな現代アートの島としてのイメージも定着しつつある。

しかし、多くの観光客を受け入れるためには、交通アクセスや観光客の滞在のための施設が十分確保されているとはいえ、このことは住民生活における利便性という観点からも考慮されなければならない。

また、現在は主に夏季に集中している観光客を、年間を通じて来島してもらえる魅力ある島づくりを進める必要がある。

現在、多くの来訪者を集める犬島アートプロジェクトは、今後の観光分野での目玉事業といえ、観光客の誘致を通じて雇用の創出などの経済波及効果が期待される。今後も、行政、地域住民、関係機関・団体が連携・協力しながら観光産業の育成に力を注いでいく必要がある。

【施策の内容】

リピーターや滞在者を増やしていくために、交通アクセスの向上など、観光客の受け入れ体制の充実を図るとともに、島内で展開される犬島アートプロジェクトやその他のイベント等については、関係機関・団体と連携し、島の活性化につながるよう効果的な支援に努めていく。

また、豊かな自然、風光明媚な景観といった資源を活用した海水浴、キャンプ、シーカヤック体験、天体観測などのレジャー型観光の充実

に向けた検討を行い、利用者の増加を図るとともに、インターネットやマスコミ、パンフレットなど、様々な媒体を通じて魅力ある犬島の情報発信に努めていく。

(9) 交流人口の拡大

【現状と課題】

海水浴場、キャンプ場、犬島自然の家などの施設の利用や犬島アートプロジェクトやその他のイベント開催などを通じ、来島者との交流の機会は増えている。また、子供たちが島内探検を行う「犬島わくわく冒険キャンプ」や犬島で英語留学体験を行う「岡山イングリッシュビレッジ」も実施されており、引き続き、交流の促進に向けた取組が必要である。

【施策の内容】

交流人口の増加に向けて、現在島内でイベント等を開催している関係機関・団体と連携しながら、島の魅力向上や情報発信について研究していく。